

「お金のカタチ」ワークシート～歴史編～

1. 下線に当てはまる言葉を考えて、穴埋めしてみましょう。

・日本では飛鳥時代末期から奈良時代にかけて、貨幣を作っては価値が暴落し、新たに鑄造してはまた価値が暴落し…を繰り返していました。この時代に作られたお金のことを皇朝_____とよびます。

・戦国時代には、戦国大名によって独自の貨幣制度が制定されました。例えば武田信玄は甲斐金山からとれる金による甲州金を作り、__進法による計数制度を作りました。織田信長は市場を独占していた座、問丸、株仲間を廃止し、自由な商業ができるような仕組みを作りました。これを_____といいます。

・江戸時代には金貨銀貨銭貨の三種を用いた貨幣制度が確立されます。金は武田信玄の制度を倣って計数制度でしたが、銀は重さによって価値が変わる_____制度が導入されていました。

・江戸時代、三種類のお金が使われていたため、それらを両替する人が現れます。彼らを_____と呼びます。かれらは現在でいう銀行のような役割を持っていました。

・江戸時代、貨幣は全体的に不足気味でした。そこで、買いものを_____への付けで行い、お盆や年の暮れにまとめて支払う_____の風習が広まりました。

・江戸時代には金貨の質を変える_____が多く行われました。これは、財政的に苦しい幕府を支えるために行われることがほとんどでした。

・明治時代、__円=_____銭=_____厘とする貨幣制度が導入されました。

・また、このころの貨幣は金や銀と交換することのできるチケットのような役割を持っていました。この仕組みのことを_____といいます。

・戦争中に臨時で発行される紙幣を_____といいます。第二次大戦中、日本軍もこれを大量に発行していました。

2. 貨幣の仕組みは、時代によってその時代に合わせた、効率の良いものが採用されてきました。いま、あなたが時の権力者で、貨幣制度を変えたいと思っているのならどのような制度をのぞみますか？考えて書いてみましょう。